

学生の皆さんへ

2021・4・9

学長 谷岡郁子

今年度は昨年度と違って、皆さんにキャンパスの春を満喫してもらいたいと願っていましたが、残念ながら願いは叶わないようです。

今週のPCR検査で10人を超える陽性者が判明し、そのほとんどがひとつのクラスに固まっています。

再三、皆さんに説明してきたように、本学のPCR検査は「陽性者」をあぶり出すためのものではありませんし、元々、社会全体の現状を考えれば、どこで誰がウィルスを拾ってきて仕方がないと考えてきました。ゼロ・リスクを目指してはいない、ということも伝えてきました。今回の検査結果についても、検査をやったから確認できたのであって、もし、検査なしで放置していれば大学全体としてたいへんな蔓延状況になったと考えられます。

その意味では、ウィルスがどこにいるか見えてよかったとも思います。

その一方、陽性者の塊ができているということは、この塊を作った学生たちが学内で感染し合うような行動があったと推測します。去年1年を通じ、また今年度になってからも、入学式、オリエンテーションを通じて、「このくらい、いいだろう」と思わないでほしいと伝えてきただけに残念です。「他の人もやっているから」、あるいは「この程度なら」という考えでは、コロナ・ウィルスの感染を予防できないことを、今一度、しっかり理解してもらいたいと思います。私たち教職員としても、ついつい大目に見てしまいがちなところを反省させられます。密になっていたり、マスクなしに会話したりという行為に対しては、皆が皆に注意し合う環境をつくれないと、楽しいキャンパス・ライフは維持できないのだと感じます。誰かが、安全な環境を守ってくれると期待するのではなく、皆で安全であるための努力ができるように、学生の皆さんも協力してください。

保健所とのやりとりが続く現在、すぐにいつから大学での授業を再開するということを決めることはできません。学内の消毒や、感染を防ぐためのさらなる対策を検討して、できるだけ速やかにキャンパスでの生活が取り戻せるよう努力しますので、次の連絡を待ってください。それまでは、遠隔での授業になります。